《特集　4月・中国の反日運動》

上海の反日抗議行動

（東京大学大学院）大澤　肇

筆者は，2003年９月より上海の華東師範大学に留学しており，今回の一連の反日抗議行動に遭遇した。本稿では，デモが行われた４月16日に筆者が見聞したことを中心に，この１カ月上海で起きた一連の反日抗議行動について振り返ってみたい。

Ⅰ．高まる「反日」の気運

今回の反日抗議行動は，まず「日本製品不買運動〔抵制日貨〕」という形で始まった。直接の契機は，新華社系『国際先駆導報』誌が「アサヒビールが，歴史を歪曲する歴史教科書を支持〔朝日啤酒賛助歪曲歴史教科書〕」(1)という記事を載せ，東北部で日本製品の撤去が始まったことに端を発する。

筆者が滞在する華東師範大学でも，同大学公式BBS(2)にあった書きこみなどによれば，４月６日に学生食堂で日本製品不買運動の署名活動があったという。そのためか，筆者も，学校の近くのコンビニエンスストアで，若いカップルがジュースを買うときに，「それはサントリーのだろ，ダメだよ〔這是“三得利”！不行！〕。」「じゃ，これはいいの？」「統一(3)のだな，ならよし〔這是“統一”，可以〕。」といったやりとりを目撃した。

４月９日，北京で大規模なデモが発生すると同時に，華東師範大学の日本人留学生が，大学裏門の近くのバーで殴られるという事件が発生した。幸いなことに大学内では，以降このような事件は起きなかった。しかし，北京のデモからの１週間は，学内で学生による自主的な日中関係討論会が散発的に開かれ，これに対抗して学校当局も，教員や党委などを通して学生に相当な圧力をかけ，15日についに学生党員集会を開き，デモへの参加自粛を要請したという。

一方，学校外では，若いサラリーマン層を中心に，電子メールや携帯電話のショートメッセージを通してデモの計画が廻っていた。

Ⅱ．「4・16デモ」体験記

以下の文章で示す時刻は，記憶に基づくだいたいの時間である。

９時10分，「バスで偶然通っただけだがデモ隊は，人民広場を既に出発したようだ」との友人からの携帯電話のショートメッセージを受けて，筆者は大学の宿舎を出発した。９時40分，地下鉄中山公園駅の構内に到着。地下鉄の車両に乗りこむと，「交通管制により人民広場駅出口封鎖」との車内放送が流れていた。向かいに立っていた中国人の若い男２人組もデモに参加するようで，その放送を聞くなりそわそわし，結局一つ手前の石門一路駅で降りることに決めたようだった。地下鉄のなかで，封鎖解除との放送があったが，筆者は最初から重慶北路と延安西路の交差点でデモ隊を見るつもりだったので，最寄りの石門一路駅で降りた。

10時，重慶北路と延安西路の交差点にてデモ隊に遭遇，見物する。歩道橋の上は，多くの野次馬がいたが，彼らのほとんどは上海人で，上海語でしゃべっており会話の内容はよく聞きとれなかった。デモ参加者たちは，以下のようなスローガンを叫び，行進していた。時には国歌（義勇軍行進曲）を歌いながら行進していたが，一方で「インターナショナル」を歌っていた参加者は，筆者の聞いたかぎりいなかった。

「日本製品不買，我らが中国を愛せよ！」〔抵制日貨，愛我中国〕
「小日本を打倒せよ」〔打倒小日本〕
「小泉を打倒せよ」〔打倒小泉〕
「日本帝国主義を打倒せよ」〔打倒日本帝国主義〕
「小日本を追いだせ！」〔滚小日本！〕
「日本ブタ！」〔日本猪！〕

「抗日抗日抗日！」

10時30分，筆者は石門路でデモ隊と離れ，地下鉄で江蘇路駅へ向かった。10時40分，人民広場でまた新たなデモ隊が出発との話を聞く。

10時50分，筆者は，江蘇路と延安西路の交差点に到着。11時，デモの先頭が，同所に到達。この段階では，まだデモ隊は整然と行進していたので，安全と判断し，この近くの行きつけのレストランに行って，デモ隊に混じっての写真撮影などを行う。レストランの近くには中国資本のコンビニエンスストアがあったのだが，デモ隊が通過するたびに，参加者が駈けこんで，食べ物や飲料を買っていく。デモで儲けたのがコンビニエンスストアというところが，現代上海らしいところである。また，延安西路の両側にある高層マンションの窓から，住民たちが国旗を振って応援していた。

ここでは，デモ隊の持っていたプラカードの内容を紹介しておこう。以下に示すように，駄洒落やパロディ，画像のコラージュしたものも入っており，「遊び」の要素が強かったのも特徴のひとつであると言える。

「MADE IN CHINA ／ FUCK JAPAN」
「KILL JAPANESE」
「日本の常任理事国入り反対」
「釣魚島を守れ」
「歴史の改竄を許すな」
「小日本を打倒せよ」〔打倒小日本〕」
「日本製品不買！」〔抵制日貨〕
「小泉はただ糞を垂らすだけのイヌ〔小“犬”只会拉屎尿的狗〕」(4)
「中国人を怒らせると，あとが恐いぞ！〔中国人很生気，后果很厳重！〕」(5)

12時，筆者は江蘇路駅へ戻り，地下鉄中山公園駅を経由して，総領事館や日本人居住者の多い古北地区へ向かった。12時30分，当地区へ到着。このとき，仙霞路の日本料理屋「味蔵」は既に窓ガラスが割られ，ひどい状況になっていた。仙霞路から婁山関路を南に進むと，延安西路へ向かう地点が，制服姿の警官によって，スクラムを組み防衛線を張って封鎖されていたために，人々は密集状態となり，参加者はどんどん興奮気味になっていった。

13時，領事館前に到着。領事館入口前の道路も，盾を持った警官が道を封鎖していた。「学生達，市民達，君たちの愛国の気持ちはよくわかったので，安全のために現場からすぐ離れなさい。」という放送が繰りかえし流れるものの，領事館にペットボトルが投げこまれるたびに喚声があがっていた。人が多く，危険な雰囲気を感じ，大学に戻った。

筆者が至近距離で撮影でき，デモ隊と行動できたことからわかるとおり，少なくとも延安西路行進中は，非常に統制が取れており，恐怖感は感じなかった。参加者もみな楽しそうであった。天気がよかったからだろう，カップルで参加，と見られる人々も多かった（中には，白人男性と中国人女性，という組合せもいた）。また参加者の8割近くは20代くらいに見えた。

Ⅲ．祭のあと

領事館前に集まったデモ隊は，15時ごろに解散したようだが，筆者が再び17時ごろ古北地区に出かけると，古北地区の別の場所で20名前後の学生と思われる団体により，デモが散発的に継続していた。

しかし，翌週になると，先週の興奮と盛りあがりが嘘だったかのように，キャンパスには平穏が戻った。授業も通常通り行われたが，当局は依然警戒心を解かず，22日には再び学内で党員集会が開かれ，デモ活動への不参加が呼び掛けられた。27日，大学では学科ごとに学内の大礼堂に学生を集め，日本料理店破壊のスライドを見せて，警告を発したとのことである。これによってはじめて事件を知った学生もおり，筆者に謝ってきた者もいた。

今回の事件について，中国人の友人たちと議論を行った[6]ので，その抄録を以って本報告の締め括りとしたい。彼らは，デモを行った若者たちと同世代であり，彼らのメンタリティを理解する一助になれば，と考える次第である。

(1) A氏(学部生,日本語学専攻,男性)との会話：
筆者：日本では大変な反応だが，どう思うか。
A氏：日本人の友人から聞いたが，日本でも大変な反応を引きおこしたことは知っている。古北で一部の中国人の過激な行動があったことは事実。しかし，より多くの中国人は，日中両国が平和的友好的関係を続けていくことを願っている。
筆者：今回の事件では，多くの日本料理屋が壊されてしまったが……
A氏：こうした事態になってしまったのは，たいへん残念である。しかし，そのような行為に及んだのは，一部の過激な人々であり，99%の人は，平和的に行進を行ったに過ぎない。私自身はデモに参加しなかったが，いろいろな人から話を聞いた。今回のデモは，日本の対中政策，主に教科書が問題だと思う。
筆者：なぜか？ 日本には検定制度というのがあって，「新しい歴史教科書」の採択率〔使用率〕は0.1%以下だ。それに，教科書の内容は全体の知識の一部でしかないので，あまり重要であるとは考えられないが……
A氏：多くの日本人が同じことを言う，つまり，日本には教科書はたくさんあると言うが，若い世代への影響が心配なのである。

(2) B氏(大学院生,経営学専攻,男性)との会話：
筆者：歴史問題が解決したら，日中関係は好転すると考えるか？
B氏：すると思う。
筆者：具体的に日本は何をすればよいと考えるか？
B氏：ドイツ並みの対応が必要だと考える。つまり，ドイツはナチスを法律的に禁じている。それに対し，日本は「言論の自由」と言って，過去の過ちを認めていないように見える。
筆者：日本は過去に何回も謝罪している。例えば1995年の村山総理の談話などだ。これについてはどう考えるか？
B氏：知っている。しかしなぜ小泉首相は靖国神社参拝を続け，多くの日本人がこれを支持しているのか？ 私は，靖国神社は戦争の加害者が祀られているということで血塗られた場所であると思う。小泉首相には，(日本が戦争の) 加害者であるという感覚が無いのではないか。このようなことが続けば中国人と日本人の感情はすれ違ったままであると思う。
筆者：多くの日本人に，小泉政権の政策，特に対外政策は支持されていない。例えば，先日行われた毎日新聞の世論調査ではだいたい50%の日本人が小泉政権の対中政策を批判している。多くの日本人は親中派だ。
B氏：しかし読売や産経は対中強硬派であるし，(これらや)日本のネットを見る限り，日本人の多くはきちんとした小泉外交を支持しているように思える。
筆者：さて，デモのスローガンの1つは日本製品排斥だったわけだが，それは実際可能だと考えるか？
B氏：不可能だと思う。
筆者：参加者についてどう思うか？
B氏：大部分は学生だろう。多くはきちんとした思想を持たず，日本について片寄った知識しか持っていない。
筆者：さきほど「日本について片寄った知識」と言ったが，それはどこから来たものだと思うか？
B氏：(1) 教科書，(2) 報道，(3) 祖父母たちの話。教科書には日本軍の残虐な行為についての話が載っている。嫌いにならないはずがない。報

道の多くは，日本の右翼に関するものなので，多くの日本人が友好的であるとは信じがたい。祖父母は，旧正月に親戚で会うときに，よく（過去の）話を聞く。

［注］

(1)『国際先駆導報』140期（2005年3月25日）。

(2)師苑賢亭論壇。http://bbs.yjsy.ecnu.edu.cn/。

(3)台湾の食品メーカー。

(4)中国語で「犬」と「泉」という字の発音が同じ（quan）ということを利用した駄洒落であり，イヌとは日本の対米追随外交を諷刺した意味。ネット上ではよく使われる表現。

(5)中国人の友人の教示によれば，これは今年春に公開された映画『天下無賊』に出てくるセリフ「俺を怒らせると，あとが恐いぞ！〔我很生気，后果很厳重！〕」のパロディだという。

(6)文中のカッコ( )は，筆者が分かりやすさなどを考慮して補ったものである。なお，議論自体は基本的に中国語で行った。

4月16日延安路の歩道橋の上から（撮影：筆者）

4月16日デモ隊の持っていたカード。このように遊び度（？）が高い（撮影：筆者）

4月16日婁山関路一興義路で，密集状態となり興奮するデモ隊と上海の民衆（撮影：筆者）

4月16日警官の防衛線（撮影：筆者）